

平成29年度 薬学部 FD 研究会報告

大井義明（文責）、河村好章、古野忠秀（委員長）、茂木眞希雄、安池修之、上井優一、森田雄二、小川法子、井上 誠

愛知学院大学薬学部 FD 委員会

平成29年度薬学部FD活動としては、研究授業（「薬品物理化学Ⅱ」：小川法子講師、11月24日）、第1回講演会（「多職種連携教育（IPE）ー連携できる医療人育成を目」鈴木一吉先生（歯学部講師）、2月19日）、第2回講演会（「より有意義で効果的な薬学実務実習をめざして」鈴木匡先生（名古屋市立大学大学院薬学研究科教授、3月13日）、ワークショップ（第1回「ループリックを用いたパフォーマンス評価考察」、9月4日；第2回「薬学教育における、①ヒューマンズ教育・倫理教育、②コミュニケーション教育、③問題解決能力醸成教育の体系的な実施の在り方と通過目標設定、評価のポイント考察」、3月5日）を実施した。

研究授業は、「薬学教育における動画コンテンツの有効活用」をテーマに、授業の中に動画コンテンツを組み込み、分かりやすい講義をされている小川講師の「薬品物理化学Ⅱ」にて実施し、多くの教員が参加した。その後の意見交換会では、授業の実施状況や動画コンテンツの薬学教育への有効性等について、活発な意見が出された。

第1回講演会は、すでに薬学部と歯学部の間で行われている多職種連携教育（IPE）に関する講演を、歯学部で精力的にIPEに取り組んでおられる鈴木一吉講師をお招きして、「多職種連携教育（IPE）ー連携できる医療人育成を目指した取り組みー」というタイトルで実施した。他大学でのIPEの取り組みや本学での取り組みを、動画を交えてわかりやすく講演していただいた。本学の教員40名の参加があった。

第2回講演会は、平成31年度から、改正コアカリキュラムに準拠した実務実習が開始されることを踏まえ、名古屋市立大学大学院薬学研究科

教授であられる鈴木匡先生をお招きして、「より有意義で効果的な薬学実務実習をめざして」というタイトルで講演をお願いした。より有意義な実務実習を目指す試みについて講演をいただいた。本学教員35名の出席があった。

第1回ワークショップは、学習者のパフォーマンスの質を段階的・多面的に評価するための評価基準表であるループリックを用いた評価法についてワークショップを行った。他大学での導入例などの講演をしていただいた後、本学のディプロマ・ポリシーに沿ったループリック表の作成を各班で行った。薬学部教員40名が参加した。

第2回ワークショップは、本学において体系的に行うことが求められている、①ヒューマンズ教育・倫理教育、②コミュニケーション教育、③問題解決能力醸成教育の実施法、目標設定、評価法についてワークショップを行った。各班で現状における体系的な教育の実施状況を検討した後、さらに効果的にするための具体的な方法、効果的な評価法の検討を行った。薬学部教員40名が参加した。

研究授業

「薬学教育における動画コンテンツの有効活用」

研究授業は、11月24日2限「薬品物理化学Ⅱ」（2年生対象）（小川法子講師）にて行われ、多くの教員が参加した。そのうち18名の教員がアンケートに回答し、その後の情報交換会には11名が出席した。

情報交換会で出た意見は、以下の通りである。

- ・宿題を出すことが良いのか。
- ・理解度を図ることをどのように行ったら良いか。

- ・教室の前方に座っている学生は、プリントに書き込みをしている。
- ・ノートテイキングができていない学生が多い。
- ・授業を眺めているか、単に書いているだけ。
- ・学生が講義の時間中に理解しようとしていないのでは。
- ・医療とのつながりについての項目は？取り上げることは時間的に厳しい。
- ・アイコンタクトをもっと取った方が良いのではないか。
- ・下を向いている学生が多い。呼びかけをしたらどうか。

アンケートの回答は以下の通りである。

1. 授業の組み立てについて（クイズの実施や重要点の繰り返しなど）

- ・スライドを用いパネルへの書き込みを用いて詳しく説明を加えていく内容であった。教員が書き込みを行うため、学生の書くスピードもちょうど良くなり、ノートが取りやすいのではないかと思う。（4名）
 - ・重要点や分かりにくいところを繰り返し、より分かりやすい授業であると思う。（4名）
 - ・動画は視覚的に理論を学ぶのによいと思う。（4名）
 - ・授業の内容の問題を出題し、確認を行っているのが良い。
 - ・教科書は読んでおくよう指示し、講義中は使わない。
 - ・非常に明快で分かりやすいが、タブレットの使い方（表示が重なって見づらい）は改善すべきと思われた。
 - ・他の科目、講義などとの関連性を述べた方が良いと思う。
 - ・図と数式との関連をわかりやすく示している。
 - ・なぜなのかと理由をしっかりと説明していたので、学生が丸暗記になるのを防げる講義であった。
 - ・到達目標や意義について述べてあり、動機づけに良いと思った。
 - ・重要な点をもう少し強調すると学生が分かりやすいのでは。
 - ・学生にとっては内容が多すぎるかもしれない。
- #### 2. スピーチによる情報提供について（例：話の

テンポ、明瞭さ、マイク音量など）

- ・声が明瞭でスピードも良く、聞きやすい。（13名）
 - ・マイク音量は適切である。（4名）
 - ・とても優れている。
 - ・話のテンポは少し早いかもしれない。
- #### 3. 文字情報の提供について（例：板書やスクリーン文字の見やすさなど）
- ・スライドが大変見やすく良かった。（14名）
 - ・スライドを送るときも学生に声掛けをして確認をしており良かった。
 - ・ハンドアウトを配布しているので問題ないと思うが、スライド中の文字が小さいところがあったので大きくした方が良いと思う。（2名）
 - ・前半相図で図に書き込まなければ理解しづらい内容だったので書き直していたが、ハンドアウトは書きやすいように同じ図がいくつかあっても良いように感じた。
 - ・重要点は色を変えてスライド上に書き込まれた。
 - ・最後尾の席からも読むことができる大きさであった。（2名）
- #### 4. 図画情報の提供について（例：PowerPointやハンドアウトの利用など）
- ・図が多く大変見やすい。（6名）
 - ・動画の説明があり分かりやすい。（3名）
 - ・PowerPointと同内容のハンドアウトが配布された。（2名）
 - ・カラフル過ぎず、シンプル過ぎず分かりやすくまとまっていた。
 - ・スライド枚数が少なく要点をとらえていて、カラー表示で分かりやすい。
- #### 5. 学生の様子について（例：受講態度、ノートの取り方など）
- ・真面目にノートに書き込みをしており、静かである。（10名）
 - ・数名寝ている学生がいたが、その他多くの学生はしっかり聞いていた。
 - ・下を向いている学生が目立った。（3名）
 - ・教員が書いた内容をメモする学生は多いが、口頭で話している内容を書き下している学生は少ない。（3名）
 - ・わかりやすく説明しているが、学生の多くは下

- を向いているので、ハンドアウトに空欄を作って書き込ませるようなことをさせてはどうか。
- ・疲れているのか寝てしまっている学生が少数いたが、絶妙なタイミングで動画を見せることで授業に集中させていた。
 - ・前を向いている学生が少ない。聞きながらメモができないのでは。
6. その他、設備面など問題点や総括的な感想について
- ・例題等をあげて、どのように式を応用するかなどがあった方がより学生が理解しやすいのではないか。
 - ・非常にわかりやすい授業だと思う。これで理解できないという学生がいたら、学生の側の問題である。
 - ・設備に特に問題は無かった。
 - ・全体的に分かりやすい授業であった。学生がどの程度理解したかを知りたい。
 - ・このような基礎的な授業で双方向性の授業は可能か。
 - ・動画が小ディスプレイに反映されるとなおいと思う。
 - ・ディスプレイがつかなかった。(2名)
 - ・学生一人当たりのスペースが少ない。
 - ・手書き文字の解像度が低い。(設備的な問題)
 - ・講義室が暖かめで眠くなってしまふのではと感じた。
 - ・もう少し雑談や他の科目、これまで話してきたことの関連などを入れるといいのでは。
 - ・全体的にスクリーン、配布資料、講義の内容等は学生にとって大変良い講義であると思う。

第1回ワークショップ

「ルーブリックを用いたパフォーマンス評価考察」

第1回ワークショップは、以下の3点をテーマに、40名の教員が参加した。

- ①ルーブリック評価の基礎を知る
- ②ルーブリック活用利点、作成方法、活用ポイントを学ぶ
- ③自学部におけるルーブリックを用いた評価、指導の在り方、活用実践方法について考察を行う

う

9グループ(4~5名/1グループ)に別れて、本学のディプロマ・ポリシーに含まれる、①教養、倫理観、コミュニケーション能力、②専門的知識、技能、態度、③科学的思考力、実践能力、問題解決能力を評価するためのルーブリックの評価基準について話し合っ、プロダクトを作成した。各グループのプロダクトは、以下の通りである。

1班

1枚目：DPルーブリック考察

| ●資質・能力 | | | | |
|--------|---|--|--|--|
| 自己研鑽能力 | | | | |
| | 理想的 | | | |
| 目標 | 高い目標を常に持ち、それを十分に達成することができる。 | | | |
| 向上心 | 自己の現状に満足することなく、常に学ぶ姿勢を持ち、新しい能力を身に着けるよう行動している。 | | | |
| 主体性 | 常に他者に頼らず自主的に行動している。 | | | |
| 自己省察 | 自身が体験、経験したことのみならず、他者からの情報についても深く考えることができる。 | | | |

1枚目：DPルーブリック考察

| ●資質・能力 | | | | |
|--------|------------------------------------|--|--|--|
| 科学的思考力 | | | | |
| | 理想的 | | | |
| 問題提起 | 常に批判的な姿勢を持ち、建設的な問題提起ができる。 | | | |
| 情報収集 | 必要な情報を十分に収集できる。 | | | |
| 独創性 | 他者のまねごとではなく、キラリと光る薬学的テーマを立案できる | | | |
| 分析能力 | データを正しく読み取り、論理的で妥当性の高い結論を導くことができる。 | | | |

1枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力

実践能力・問題解決能力

| | 理想的 | | |
|-----------|---|--|--|
| 計画立案能力 | 目標およびリソースを把握し、十分に実現可能な計画を立案できる。 | | |
| 能動性 | 目的を十分に理解し、自ら積極的に行動できる。 | | |
| 状況判断能力 | 自らが持つ知識・能力をもとに周囲に流されることなく適切に行動できる。 | | |
| プレゼンテーション | 自らの意見を論理的にかつ分かりやすく述べることができる。 | | |
| チーム力 | メンバーの能力・状況を把握し、お互いを尊重しつつ目標に向けて協力することができる。 | | |

2 班

1枚目：DPルーブリック考察 2班

●資質・能力

自己研鑽能力

| | 評価基準 | |
|-------|---|------------|
| 評価指標 | | |
| 態度・姿勢 | 薬剤師としての使命感と高い探究心に基づき、自己の能力を分析した上で、必要な情報を収集することができる。 | 現状に満足している。 |
| 成果 | 資格取得や学習会、学会等へ意欲的に参加している。 | |

1枚目：DPルーブリック考察 2班

●資質・能力

科学的思考力

| | 評価基準 | |
|------------|---------------------------------------|----------------------|
| 評価指標 | | |
| 知識・論理性・表現力 | あらゆる知識を駆使して論理的に物事を考え、成果としてまとめることができる。 | 論理性に乏しいが、知識は身に着けている。 |

1枚目：DPルーブリック考察 2班

●資質・能力

問題解決能力

| | 評価基準 | |
|---------|----------------|---------------------------|
| 評価指標 | | |
| 把握力 | 問題を自ら発見把握する。 | 問題解決には至らないが、問題に気づくことができる。 |
| 調査・分析能力 | 情報を適切に収集・分析する。 | |
| 実行力 | 解決策を提案し、実行する。 | |

3 班

1枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力

実践能力

| | 評価基準 | |
|------|---|--------|
| 評価指標 | | エクセレント |
| 行動力 | 医療現場における問題点を抽出し、問題解決のための方略を立案し、倫理的配慮のもと、実践する。 | |
| 社会貢献 | 成果を論文および学会報告し、広く社会に貢献する。 | |

1枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力

3班 科学的思考力

| | 評価基準 | |
|--------|--|----------------------------------|
| 評価指標 | 最高 | 最低 |
| 知識 | 十分な知識のもと、実験結果を分析し、科学的根拠に基づいた考察をすることができる。 | 知識不足がみられるため、科学的根拠に基づいた考察が不十分である。 |
| 論理的思考力 | 論理的根拠に基づき、実験計画が立案できる。 | 実験計画は立案できるが、論理的根拠が不十分である。 |

1枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力

問題解決能力

| | 評価基準 | |
|-----------|--|-------|
| 評価指標 | | プレミアム |
| コミュニケーション | 多職種連携のもと、問題解決に必要な情報を適切に抽出し、問題解決に寄与するための糸口を与える。 | |
| 積極的な姿勢 | 医療現場における問題点を抽出し、多角的な判断のもと対応することができる。 | |

4 班

1 枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力
基礎的・専門的知識
技能、態度

4班

| | 評価基準 4 | | 1 |
|-----------|-------------------------|--|---------------------------|
| 評価指標 | 理想 | | 発展途上 |
| 基礎的・専門的知識 | | | |
| CBT | さまざまな知識を融合して、適切な判断ができる。 | | 最低限の知識しか身につけていない。 |
| 卒業試験 | 薬学士として十分な知識を身につけている。 | | この知識は身につけているが、統合化ができていない。 |

1 枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力
基礎的・専門的知識
技能、態度

4班

| | 評価基準 4 | | 1 |
|--------|-------------------------|--|----------------|
| 評価指標 | 理想 | | 発展途上 |
| 技能 | | | |
| 科学者として | 科学実験の技能を十分に身につけている。 | | 指示されたことしかできない。 |
| 薬剤師として | 医療人になるために十分な技能を身につけている。 | | 指示された業務しかできない。 |

1 枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力
基礎的・専門的知識
技能、態度

4班

| | 評価基準 4 | | 1 |
|-----------|---------------------------------|--|-------------------------|
| 評価指標 | 理想 | | 発展途上 |
| 態度 | | | |
| 人(薬学士)として | 思いやりの精神をもって人と接することができる。 | | 人と接することしかできない。 |
| 医療人として | 倫理観をもち、守秘義務に従い、患者さんに寄り添うことができる。 | | 倫理観をもち、守秘義務に従うことしかできない。 |
| チーム医療 | 協調性をもって他の医療従事者と連携して業務を遂行できる。 | | 自己中心的な行動をとる。 |

5 班

1 枚目：DPルーブリック考察

●専門的・基礎的知識・・・薬学士として、十分な基礎的・専門的知識を有し、それらを有機的に統合して臨床現場で適用することができる。

| | 規範的 | 有能 | 発展途上 |
|-------|------------|-----------|---------------------|
| 総合的知識 | 総合的知識を有する | 個別の知識を有する | 努力はするが基本的な知識が不足している |
| 国家試験 | 国家試験を合格できる | CBTを合格できる | 留年 |

1 枚目：DPルーブリック考察

●技能・・・薬剤師として、薬剤師と同等の総合的業務を実行することができる。

| | 規範的 | 有能 | 発展途上 |
|-------|---------------------------------|--------------|------------------------|
| 実務実習 | 薬剤師として同様の技術を有する | OSCEを合格できる | 作業はできるが時間がかかり、正確さが不足する |
| 総合的技能 | 時間的、技術的、内容の正確さ、プレゼン能力の総合的機能を有する | 個々の作業は正確にできる | 薬剤師としての技能が不足している。留年。 |

1 枚目：DPルーブリック考察

●態度・・・薬剤師として、国民の健康を維持向上するために、他の医療従事者とともに患者に寄り添いながら積極的に行動し続ける。

| | 規範的 | 有能 | 発展途上 |
|------|-----------------------|-----------------|----------------|
| 主体性 | 積極的に行動できる | 事務的に行動できる | 消極的に行動する |
| 協調性 | 他の医療従事者とともに行動できる | 一人で行動できる | 周りと協調することができない |
| 思いやり | 患者に寄り添うことができる | 特定の人しか寄り添えない | 他人の気持ちを理解できない |
| 努力 | 国民の健康維持向上のために行動し続けられる | 興味があることしか努力できない | 困難なことから逃げる |

6 班

1枚目：DPルーブリック考察 6班

●資質・能力 基礎的・専門的知識

| | 評価基準 模範的 |
|--------|---|
| 評価指標 | |
| 基礎薬学 | 物質の物理的・化学的性質を理解し、医薬品の生体内での作用に関する基礎的事項を修得している。 |
| 医療・衛生系 | 人々の健康増進・公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、医療・衛生薬学の専門的知識を十分に身につけている。 |
| 臨床・実務系 | 科学的知識を応用し、常に適正な薬物を適切に適用できる。 |

1枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力 技能

| | 評価基準 模範的 |
|------|--|
| 評価指標 | |
| 実践能力 | 薬剤師の任務を果たすために薬学専門分野の専門的技術を正確かつ適切に実践することができる。 |
| 臨床 | 最新の個別技術を活用しつつ患者との最適なコミュニケーションを通じた適正な医療を提供できる。 |
| 研究能力 | 薬学・医学の進歩と改善のため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有し、その成果を発表することができる。 |

1枚目：DPルーブリック考察

●資質・能力 態度

| | 評価基準 模範的 |
|------|--|
| 評価指標 | |
| 積極性 | 薬剤師として活躍するために自主的・能動的に行動する積極性を身につけている。 |
| 協調性 | 常に周囲に気を配り、他者を思いやり、業務を円滑に進めることができる。 |
| 努力 | 知識・技能を確実に自分のものにするために、失敗しても諦めず、自主的に学ぶ意欲・態度を有している。 |

7 班

1枚目：DPルーブリック考察（7グループ）

●倫理観

| | 4 | 3 | 2 | 1 |
|------------|---|---|---|---|
| 人としての倫理観 | 生命と個人の尊厳を尊重した態度を有し、それに基づいた行動が出来る。 | | | |
| 医療人としての倫理観 | 治験、臓器移植、遺伝子編集、情報倫理など医療人として必要な倫理観がどのようなものであるかを考える力を修得する。 | | | |
| 研究倫理 | 研究不正となる事項を理解し、それを遵守した行動が出来る。 | | | |

1枚目：DPルーブリック考察（7グループ）

●コミュニケーション能力

| | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------|-------------------------------------|---|---|---|
| 患者対応 | 患者の話を傾聴し、患者の立場に立った説明ができる。 | | | |
| 多職種連携 | エビデンスに基づいた指針が必要としている有益な情報を提供・収集できる。 | | | |

1枚目：DPルーブリック考察（7グループ）

●教養

| | 4 | 3 | 2 | 1 |
|----|--------------------------------|---|---|---|
| 教養 | 大学生としてふさわしい知識と人間性を身につけた行動が出来る。 | | | |

8 班

1枚目：DPルーブリック考察

●教養（グループ8）

| | 評価基準 | 理想 | 充実 | 発展地上 |
|-----------|-----------------------------------|----|----|-------------------|
| 情報収集 | 必要な情報を収集・評価・加工し、適切に表現している。 | | | 自分に必要な知識・情報を収集する。 |
| 知識 | 基本的な医療知識・制度を身につけている。 | | | |
| 医療知識・医療情報 | 様々な立場の人の気持ちを理解するための知識や能力を身につけている。 | | | |

1枚目：DPルーブリック考察

●倫理観

| | 評価基準 | 理想 | 充実 | 発展地上 |
|------|------------------|----|----|---------------|
| 他者理解 | 患者や社会的弱者を尊重している。 | | | 自己利益のみを考えている。 |
| 道徳感 | 道徳感を持つ行動をしている。 | | | 命の尊厳を知っている。 |

1枚目：DPルーブリック考察

| コミュニケーション能力 | | | |
|-------------|------------------------------------|----|------|
| | 評価基準 | | |
| 評価指標 | 理想 | 充実 | 発展途上 |
| 精合力 | 相手の気持ちを考え、適切な言葉を用いて会話をする。話をまとめている。 | | |
| 自己主張 | 自分の主張している。 | | |
| 会話力 | 相手と話をしている。 | | |
| 感情表現力 | 相手の気持ちを察している。 | | |

9 班

9 班 1枚目：DPルーブリック考察

| 教養 | 模範的3 | 有能2 | 発展途上1 |
|-------------------|---|--|-----------------------------------|
| 社会人としての一般教養を身につける | 医療従事者としての教養以外の文化、歴史、言語、教育的素養を身につけて社会人としてふさわしい態度で行動できる | 文化、歴史、言語、教育的素養を身につけているが、社会人としての行動は不十分である | 文化、歴史、言語、教育的素養を身につけているが、行動は伴わない |
| 医療人としての教養を身につける | 薬学のみならず医療人としての教養を身につけて医療の担い手としてふさわしい態度で行動できる | 薬学のみならず医療人としての教養を身につけているが、行動は不十分である | 薬学のみならず医療人としての教養を身につけているが、行動は伴わない |

9 班 2枚目：DPルーブリック考察

| 倫理観 | 模範的3 | 有能2 | 発展途上1 |
|-----------------|--|---|------------------------------------|
| 医療倫理を理解し行動計画とする | 薬剤師が遵守すべき倫理的規範について理解し行動できる。生命の尊厳(死生観)を理解し行動できる | 薬剤師が遵守すべき倫理的規範について理解できているが、行動は不十分である。生命の尊厳を理解しているが行動は不十分である | 薬剤師が遵守すべき倫理的規範について理解できているが、行動は伴わない |

| コミュニケーション能力 | 模範的3 | 有能2 | 発展途上1 |
|----------------------------|--|--|--|
| 患者・生活者との共感的態度を持って信頼関係を構築する | 臨床現場を想定して患者・生活者の安全と利益を優先した信頼関係を、コミュニケーションを通じて構築できる | 信頼関係を築くことの重要性を理解しているが、コミュニケーション能力は不十分である | 信頼関係を築くことの重要性を理解しているが、コミュニケーション能力が伴っていない |
| 他の職種との信頼関係を構築する | チーム医療にかかわる他業種の役割を理解しコミュニケーションを通して信頼関係を構築できる | 他業種の役割を理解しているが、コミュニケーション能力は不十分である | 他業種の役割を理解しているが、コミュニケーション能力が伴っていない |
| 薬剤師同士の信頼関係を構築する | 相手の立場を尊重し自己の役割を理解しコミュニケーションを通して信頼関係を構築できる | 薬剤師同士の信頼関係の構築の重要性は理解しているが、コミュニケーション能力は不十分である | 薬剤師同士の信頼関係の構築の重要性は理解しているが、コミュニケーション能力が伴っていない |

本ワークショップは、次のように総括された。

●良かった点

1) おそらく今後必要になるだろう、ルーブリック評価について、全教員で知識を共有し、評価法について一定の知識が得られたと考えられる。

●改善が求められる点

1) 今回のワークショップで、大まかなルーブリック表の評価基準は各班で作成できたが、今後、実際に運用されるであろう具体的なルーブリック表の作成にはまだまだ困難が予想される。それぞれの教科担当者間でのより綿密な意見、交換及び評価基準の統一が求められる。

第2回ワークショップ

「薬学教育における

①ヒューマニズム教育・倫理教育

②コミュニケーション教育

③問題解決能力醸成教育

の体系的な実施の在り方と通過目標設定、評価のポイント考察」

第2回ワークショップは、以下の3点をテーマに、36名の教員が参加した。

【1】薬剤師養成教育をめぐる状況の変化に対応した評価の在り方を知る

【2】「①ヒューマニズム教育・倫理教育②コミュニケーション教育③問題解決能力醸成」

以上の各実践の成果と課題を認識し評価項目を参照しながらより学生のためになるプログラム改善(中身と評価)のポイントを考察する

【3】改善実施につながるアクションプラン(ToDo)を作る

本学部では、①ヒューマニズム教育・倫理教育②コミュニケーション教育③問題解決能力醸成について、体系的な実施と、通過目標、評価を実施することが求められている。

この結果を踏まえて、6グループ(6名/1グループ)に別れて、①～③の3テーマについて、現状、問題点、対処法について議論した。テーマごとにプロダクトを作成し、最後に全体で発表報

告会及び総合討論を実施した。各グループのプロダクトは、以下の通りである。

1 班

チーム名：

| 現状（事実） | | | | |
|--------|-----|--------------|---------|-----|
| 学年 | 科目数 | 科目名 | 科目内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 生命と医の倫理 | | 1 |
| | | 薬学概論 | | 1 |
| | | 宗教学 | | 2 |
| | | 基礎薬学演習 | | 1 |
| | | 薬の歴史 | | 1 |
| 2 | | 介護概論 | | 1 |
| | | 早期体験学習 | | 2 |
| 3 | | 臨床心理学 | | 1 |
| 4 | | 臨床コミュニケーション論 | | 1 |
| | | 薬事・法制 | | 1 |
| | | 医療薬学実習Ⅲ | | 2 |
| | | 統合型学習 | | 2 |
| 5 | | 医療薬学実習Ⅳ | | 24 |
| | | 総合演習Ⅱ | | 2 |
| 6 | | 医療薬学特論Ⅲ | | 1 |
| | | 卒業研究 | | 20 |
| 合計 | | | | 63 |

チーム名：1

| 現状（事実） | | | | |
|--------|-----|--------------|---------|-----|
| 学年 | 科目数 | 科目名 | 科目内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 基礎薬学演習Ⅰ | | 1 |
| | | 薬の歴史 | | 1 |
| | | 打薬概論 | | 1 |
| | | 中医学（非・監査） | | 1 |
| | | 臨床心理学 | | 1 |
| 4 | | 臨床コミュニケーション論 | | 1 |
| | | 薬事・法制 | | 1 |
| 5 | | 医療薬学実習Ⅳ | | 24 |
| | | 総合演習Ⅱ | | 2 |
| 6 | | 医療薬学特論Ⅲ | | 1 |
| | | 卒業研究 | | 20 |
| 合計 | | | | 64 |

毎年やるのが重要！！

2 班

チーム名：2班

| 現状（事実） | | | | |
|--------|-----|---------|--------------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | 3 | 宗教学 | 宗教と倫理について学ぶ | 2 |
| | | 薬学概論 | 薬剤師に求められる適正な | 1 |
| | | 生命と医の倫理 | 薬剤師に求められる適正な | 1 |
| 2 | 1 | 早期体験学習 | ヒューマンズ精神を育む | 4 |
| | | | | |
| 3 | 1 | 医療薬学実習 | 医療倫理感を認識する | 2 |
| 4 | 1 | 医薬品毒性学 | 医療倫理感を高めるさらに | 1 |
| 5 | 1 | 学外実務実習 | ヒューマンズや医療倫理の | 24 |
| | | | | |
| 6 | | | | |
| | | | | |
| 合計 | | | | 35 |

37.1以上

チーム名：2班

| 現状（事実） | | | | | | | |
|--------|-----|--------------|---------|-----|---------------|-----|-----|
| 学年 | 科目数 | 科目名 | 科目内容/分野 | 単位数 | 特 徴 | | |
| 1 | | 生命と医の倫理 | | 1 | PBL | PBL | PBL |
| | | 薬学概論 | | 1 | | | |
| 2 | | 宗教学 | | 2 | PBL | PBL | PBL |
| | | 基礎薬学演習 | | 1 | | | |
| 3 | | 薬の歴史 | | 1 | PBL | PBL | PBL |
| | | 介護概論 | | 1 | | | |
| 4 | | 早期体験学習 | | 2 | PBL | PBL | PBL |
| | | 臨床心理学 | | 1 | | | |
| 5 | | 臨床コミュニケーション論 | | 1 | PBL | PBL | PBL |
| | | 薬事・法制 | | 1 | | | |
| | | 医療薬学実習Ⅲ | | 2 | | | |
| | | 統合型学習 | | 2 | | | |
| 6 | | 医療薬学実習Ⅳ | | 24 | PBL | PBL | PBL |
| | | 総合演習Ⅱ | | 2 | | | |
| 7 | | 医療薬学特論Ⅲ | | 1 | PBL | PBL | PBL |
| | | 卒業研究 | | 20 | | | |
| 合計 | | | | 63 | 3.5 + 1 + 2.0 | | |

3 班

チーム名：

| 現状（事実） | | | | |
|--------|-----|-------------|---------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 基礎薬学演習Ⅰ | PBL | 1 |
| | | 基礎薬学演習Ⅱ | PBL | 1 |
| 2 | | 情報処理演習 | PBL | 1 |
| | | 早期体験 | PBL | 1 |
| | | 基礎薬学実習Ⅰ | PBL | 2 |
| | | 基礎薬学実習Ⅱ | PBL | 2 |
| | | 介護概論 | | 1 |
| 3 | | 医療薬学実習Ⅰ | PBL | 2 |
| | | 医療薬学実習Ⅱ | PBL | 2 |
| | | 医薬品情報演習 | | 1 |
| 4 | | 医薬品情報学 | | 1 |
| | | 臨床心理学 | | 1 |
| | | 基礎薬学実習Ⅳ | PBL | 2 |
| | | 臨床コミュニケーション | | 1 |
| 5 | | 基礎薬学実習Ⅲ | PBL | 2 |
| | | 総合演習Ⅱ | | 1 |
| | | 医療薬学実習Ⅲ | | 2 |
| 6 | | 統合型学習 | PBL | 2 |
| | | 医療薬学実習Ⅳ | | 20 |
| 7 | | | | |
| | | 卒業研究 | | 20 |
| 合計 | | | | 67 |

チーム名：3

| 現状（事実） | | | | | | | |
|--------|-----|-------------|---------|-----|-----|-----|-----|
| 学年 | 科目数 | 科目名 | 科目内容/分野 | 単位数 | 特 徴 | | |
| 1 | | 心療学 | | 0.5 | PBL | PBL | PBL |
| | | 基礎薬学実習Ⅰ | | 1 | | | |
| 2 | | 基礎薬学実習Ⅱ | | 1 | PBL | PBL | PBL |
| | | 基礎薬学実習Ⅲ | | 1 | | | |
| 3 | | 基礎薬学実習Ⅳ | | 2 | PBL | PBL | PBL |
| | | 基礎薬学実習Ⅴ | | 2 | | | |
| 4 | | 臨床心理学 | | 1 | PBL | PBL | PBL |
| | | 臨床コミュニケーション | | 1 | | | |
| 5 | | 基礎薬学実習Ⅵ | | 2 | PBL | PBL | PBL |
| | | 基礎薬学実習Ⅶ | | 2 | | | |
| 6 | | 卒業研究 | | 20 | PBL | PBL | PBL |
| | | 卒業研究 | | 20 | | | |
| 合計 | | | | 65 | 1.9 | | |

到達目標の作成
ルーブリック評価
教員の心理学
コミュニケーション教育
2020年度開始
2019年

| | 期限 | | 役割分担 | |
|----------------|----------|----------|-------|--|
| | 開始 | 終了 | 誰 | |
| ①カリキュラム | | | | |
| ・仮作成 | | | 各自担当者 | |
| ・検討調整 | | | 各自担当者 | |
| ・完成 | Mar-19 | | 各自担当者 | |
| ②広報用資料 | | | | |
| ・仮作成 | 3,4と同時期 | 3,4と同時期 | 各自担当者 | |
| ・検討調整 | 3,4と同時期 | 3,4と同時期 | 各自担当者 | |
| ・完成 | 3,4と同時期 | 3,4と同時期 | 各自担当者 | |
| ③シラバス | | | | |
| ・仮作成 | 2, 4と同時期 | 2, 4と同時期 | 各自担当者 | |
| ・検討調整 | 2, 4と同時期 | 2, 4と同時期 | 各自担当者 | |
| ・完成 | 2, 4と同時期 | 2, 4と同時期 | 各自担当者 | |
| ④ルーブリック | | | | |
| ・仮作成 | 2, 3と同時期 | 2, 3と同時期 | 各自担当者 | |
| ・検討調整 | 2, 3と同時期 | 2, 3と同時期 | 各自担当者 | |
| ・完成 | 2, 3と同時期 | 2, 3と同時期 | 各自担当者 | |

4 班

チーム名：4 コミュニケーション

| 現状 (事実) | | | | |
|---------|-----|----------------|---------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 基礎薬学演習 1, 2 | | 2 |
| 2 | | 介護概論 | | 1 |
| 2 | | 早期体験学習 | | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 1, 2, 3 | | 6 |
| 2 | | 情報処理演習 | | 1 |
| 3 | | 医療薬学実習 1, 2 | | 4 |
| 3 | | 基礎薬学実習 4 | | 2 |
| 3 | | 医薬品情報演習 | | 1 |
| 4 | | 臨床コミュニケーション論 | | 1 |
| 4 | | 統合型学習 | | 2 |
| 4 | | 総合演習 2 | | 2 |
| 4 | | 医療薬学実習 3 | | 2 |
| 5 | | 医療薬学実習 4 | | 20 |
| 6 | | 卒業研究 | | 20 |
| 合計 | | | | 66 |

卒業には 186
差 28.8

チーム名：4 コミュニケーション

| 現状 (事実) | | | | |
|---------|-----|------------|---------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 基礎薬学演習 I | 複合系/PBL | 1 |
| 1 | | 基礎薬学演習 II | 複合系/PBL | 1 |
| 1 | | 教養の実習 | 基礎複合/実習 | 4 |
| 2 | | 早期体験学習 | 複合系/PBL | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 I | 物理系/実習 | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 II | 化学系/実習 | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 III | 生物系/実習 | 2 |
| 2 | | 情報処理演習 | 基礎複合 | 1 |
| 3 | | 基礎薬学実習 IV | 衛生系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 I | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 II | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医薬品情報演習 | 医療系 | 1 |
| 4 | | 卒業研究 | 卒業研究 | 2 |
| 4 | | 統合型学習 | 複合系 | 2 |
| 4 | | 医療薬学実習 III | 医療系 | 2 |
| 5 | | 卒業研究 | 卒業研究 | 20 |
| 5 | | 外書講読 | 語学系 | 1 |
| 5 | | 医療薬学実習 IV | 医療系 | 20 |
| 6 | | 卒業研究 | 複合系 | 20 |
| 6 | | 特論 | 複合系 | 4 |
| 合計 | | | | 71 |

5 班

チーム名：5班

| 現状 (事実) | | | | |
|---------|-----|------------|---------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 基礎薬学演習 I | 複合系/PBL | 1 |
| 1 | | 基礎薬学演習 II | 複合系/PBL | 1 |
| 1 | | 教養の実習 | 基礎複合/実習 | 4 |
| 2 | | 早期体験学習 | 複合系/PBL | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 I | 物理系/実習 | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 II | 化学系/実習 | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 III | 生物系/実習 | 2 |
| 2 | | 情報処理演習 | 基礎複合 | 1 |
| 3 | | 基礎薬学実習 IV | 衛生系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 I | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 II | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医薬品情報演習 | 医療系 | 1 |
| 4 | | 卒業研究 | 卒業研究 | 2 |
| 4 | | 統合型学習 | 複合系 | 2 |
| 4 | | 医療薬学実習 III | 医療系 | 2 |
| 5 | | 卒業研究 | 卒業研究 | 20 |
| 5 | | 外書講読 | 語学系 | 1 |
| 5 | | 医療薬学実習 IV | 医療系 | 20 |
| 6 | | 卒業研究 | 複合系 | 20 |
| 6 | | 特論 | 複合系 | 4 |
| 合計 | | | | 71 |

チーム名：5班

| 現状 (事実) | | | | |
|---------|-----|----------------|---------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | | 基礎薬学演習 1, 2 | | 2 |
| 2 | | 介護概論 | | 1 |
| 2 | | 早期体験学習 | | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 1, 2, 3 | | 6 |
| 2 | | 情報処理演習 | | 1 |
| 3 | | 医療薬学実習 1, 2 | | 4 |
| 3 | | 基礎薬学実習 4 | | 2 |
| 3 | | 医薬品情報演習 | | 1 |
| 4 | | 臨床コミュニケーション論 | | 1 |
| 4 | | 統合型学習 | | 2 |
| 4 | | 総合演習 2 | | 2 |
| 4 | | 医療薬学実習 3 | | 2 |
| 5 | | 医療薬学実習 4 | | 20 |
| 6 | | 卒業研究 | | 20 |
| 合計 | | | | 66 |

6 班

チーム名：6班

| 現状 (事実) | | | | |
|---------|-----|------------|---------|-----|
| 学年 | 講座数 | 講座名 | 講座内容/分野 | 単位数 |
| 1 | 2 | 基礎薬学演習 I | 複合系/PBL | 1 |
| 1 | | 基礎薬学演習 II | 複合系/PBL | 1 |
| 2 | 5 | 基礎薬学実習 I | 物理系/実習 | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 II | 化学系/実習 | 2 |
| 2 | | 基礎薬学実習 III | 生物系/実習 | 2 |
| 2 | | 情報処理演習 | 基礎複合 | 1 |
| 2 | | 早期体験学習 | 複合系/PBL | 2 |
| 3 | 4 | 基礎薬学実習 IV | 衛生系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 I | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 II | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医療薬学実習 III | 医療系/実習 | 2 |
| 3 | | 医薬品情報演習 | 医療系 | 1 |
| 4 | 2 | 統合型学習 | 複合系 | 2 |
| 4 | | 卒業研究 | 卒業研究 | 20 |
| 5 | 1 | 卒業研究 | 卒業研究 | 20 |
| 6 | 1 | 卒業研究 | 卒業研究 | 20 |
| 合計 | | | | 42 |

| チーム名：6班 | | | | |
|---------|----|--|---------------|-------------|
| 単位数 | 42 | | | |
| 分野数 | 3 | | | |
| 講座数 | 14 | | | |
| | 学年 | 分野① 参加型学習 | 分野② グループ学習 | 分野③ 自己学習 |
| 講座名 | 1 | 基礎薬学実習Ⅰ | 基礎薬学演習Ⅰ、Ⅱ | |
| | 2 | 基礎薬学実習Ⅱ Ⅰ（物理）、Ⅱ（化学） （共同） | 情報処理演習 | |
| | | 早期体験学習（2） | | |
| | 3 | 基礎薬学実習Ⅳ（衛生） 医療薬学実習Ⅰ、Ⅱ Ⅰ（薬理）Ⅱ（薬効） | 医薬品情報演習 | |
| | 4 | 基礎薬学実習Ⅲ（調剤） | 統合型学習（2） | |
| | 5 | | | 卒業研究 |
| 6 | | | | |
| 単位数 | | 14 | 4 | 20 |
| | | | 総合計 | 42 |

骨子
二異性
デノドマシール系ジエーの重合性
薬学の歴史との整合性
担当教員間での課題、実施方法、評価方法等のやり合わせ
各学習の関連性の可視化
学生への周知

特徴

本ワークショップは、次のように総括された。

●良かった点

- 1) 現状の薬学部教育に求められている項目を教員が把握し、現状認識をすることができた。
さらに、今後に必要なとされる課題についても認識を共有できた。

●改善が求められる点

- 1) 各教科で実際にどのような内容の授業を行っているかがわからないため、推測に基づく議論になってしまっていた。授業内容も紹介したうえでワークショップが行えたら、より有意義な議論ができたと思われる。

【総括】

今年度も薬学部 FD 活動として、1 回の研究授業、2 回の講演会、2 回のワークショップを実施し、それぞれに多くの教員が積極的に参加した。特に、ワークショップにはほぼ全ての教員の参加が得られ、薬学部教育の現状、今後の課題について、共通認識を持たたと考えられる。ただ、どちらも若干、抽象的な議論が多かった感は否めず、より具体的な科目を指定しての議論の方が、より議論が深まったかもしれない。

ワークショップを通じて、学部教員が抱えている問題意識や危機感に加え、その改善に対する意見の共有に進展があったと考えられる。薬学部 FD 委員会では、これらの取組みを通じて、薬学部の全入学生に対して、多様な視点から高度な医療人専門教育を推進するサポートを進めていく。